

平成20年度 傾斜的研究費(全学分) 研究報告書

研究費区分

②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究

研究代表者所属	理工学研究科 生命科学専攻	フリガナ 研究代表者氏名	マツウラ カツミ 松浦 克美	職	教授
研究分担者所属	基礎教育センター	研究分担者氏名	上野淳	職	センター長
	基礎教育センター		永井正洋		教授
	基礎教育センター		北澤武		准教授
	システムデザイン学部		諸貫信行		教授
	理工学系		山崎晴雄		教授
	理工学系		嶋田敬三		教授
			青塚正志		教授

研究課題名	高大連携の新展開を目指した試行実践的研究
研究実績の概要(600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)	<p>大学で学ぶ学生から、主体性・創造性・学習力などの、正答がある知識以外に社会に出てから必要な能力が、急速に失われてきている。これを改善する方法の1つとして、新しい高大連携事業を試行実践し、首都大学東京の高大連携事業の新展開の方向性を探ることを目的として、本研究を実施した。以下の事業を行い、1年目のとりまとめとして、シンポジウムを開催し、2種類のパンフレットを作成した。主な研究成果は以下のとおり。</p> <p>1. 大学の高大連携事業や入学者学業状況の調査・交流・評価 大学内でこれまで行われてきた大学内の高大連携事業の情報や各入試の入学者に関する情報を、入試課および教員への聞き取り調査等の方法を用いて収集し、分析・評価を行った。特別入試による入学者の学業成績が比較的に良いことや、特定の地方高校からの入学者が多いことが新たに分かった。それらの内容を、シンポジウムおよびパンフレットで、学内に公開した。</p> <p>2. 高大連携の学内コーディネータ組織の試行研究的運用 教員の限られた時間を有効に使うために、学内コーディネータ組織の試行運用を行った。特任教授およびコンサルティング経験のあるコーディネータを、それぞれ2日ずつ任用して実施した。その結果、大変効果的に高大連携事業とそれに関する調査を実施することができた。</p> <p>3. 大学生・大学院生参加型の高大連携事業の試行実施 希望する大学生・大学院生を対象に、彼らを出身高校その他の高校へ派遣し、大学紹介等の活動を支援する事業を試行的に実施した。約10名の学生を、5校に派遣したが、高校生および高校に好評であった。さらに、大学で学ぶ意義が明確になるなど、派遣した学生への教育効果も高いことがわかった。</p>
学会発表(発表題目、発表大会名、年月を記入)	
本研究については、なし。	
論文発表又は著書発行(発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)	
本研究については、なし。	